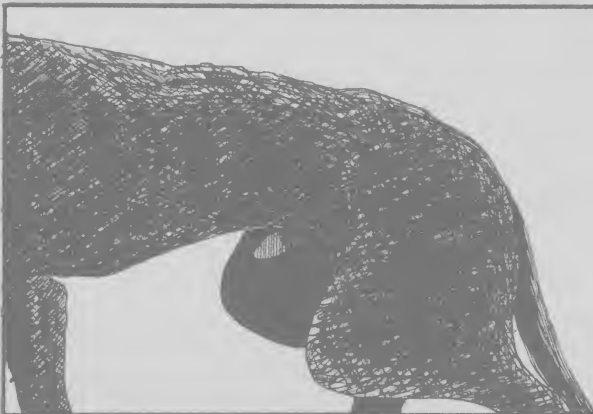
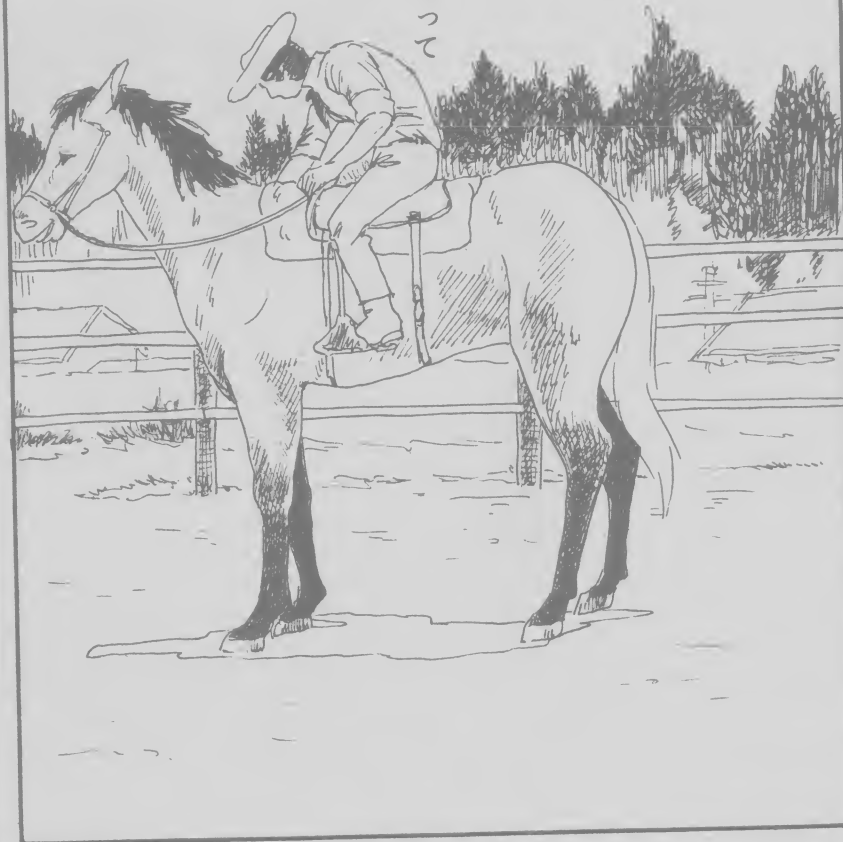
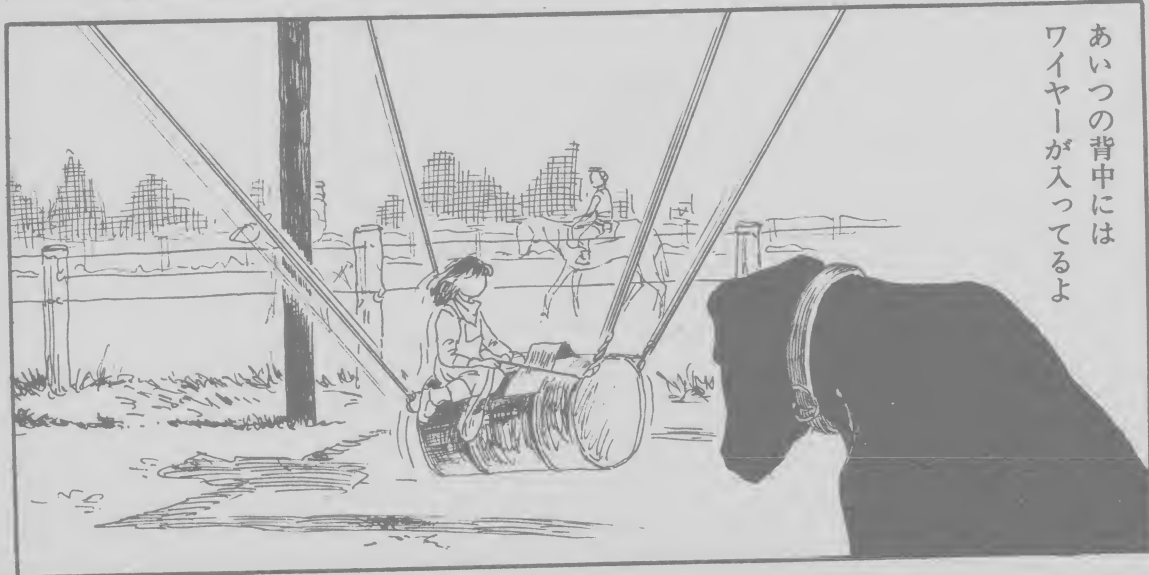
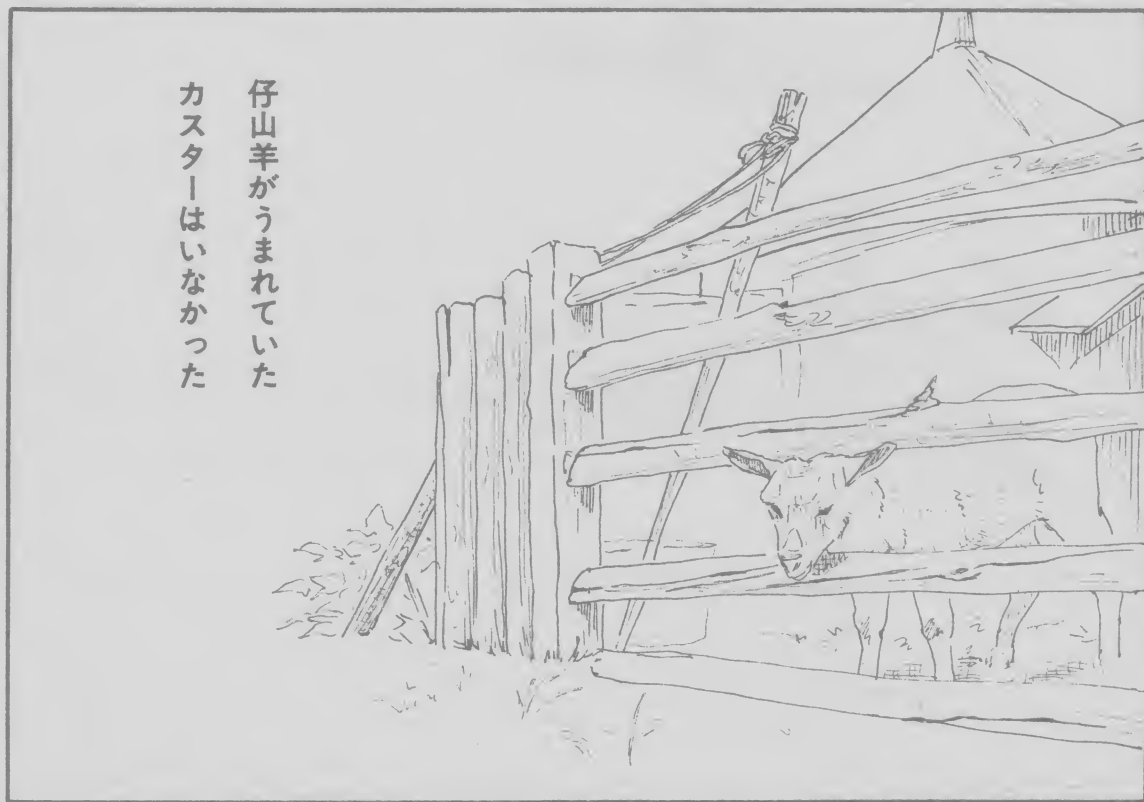
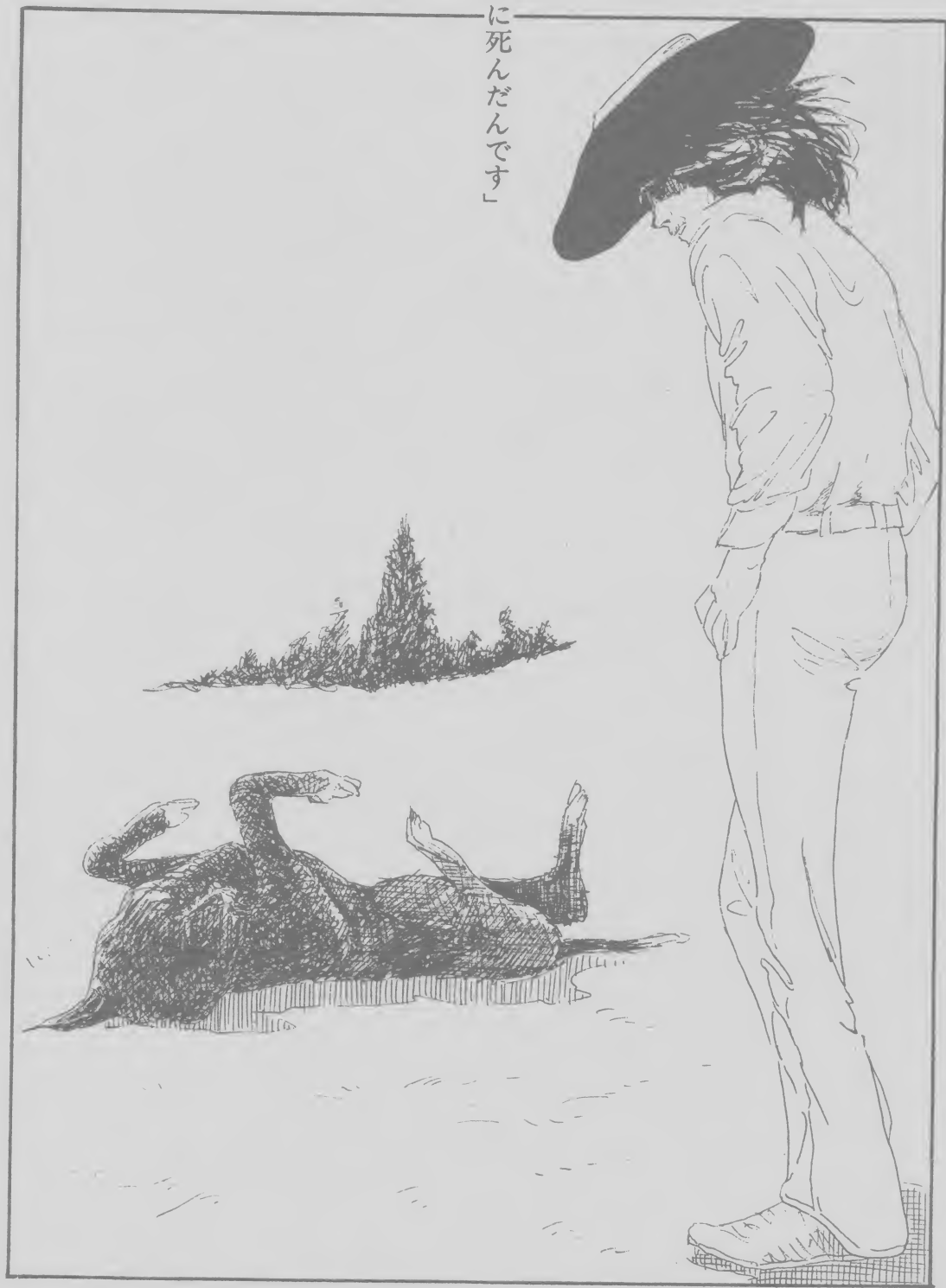
静かな将軍

やまだ紫

青く繁った草原の
向うに
のっそり立つカスターは
小牛の様に見えた

足の先と
腹以外は
すべて真っ黒で
少し離れると
もう目つきがわからない

「ヤツはでっかいし
おとなしいから
みんなで
いい気になって
ロデオごっこしちゃって
背骨折っちゃった」

大手術したんだ
いい獣医がいてね

子供達はすぐに
このグレートデンと親しくなって
好物だというモナカを
わけてやっていた

春になって
また訪ねてみたら

仔山羊がうまれていた
カスターはいなかった

「去年の11月に死んだんです」

「カスター死んじゃったんだって」

「カスターって？…」

「ほらあの黒い大きな犬」

「――死んじゃったの？
年とったから？」

「病気で」

「ふうん…
カスター 死ぬの恐かったろうな…」

この季節は
切り枝からも
新芽が出る

牛舎へまわってみると
すみのほし草の上では
ポインターの仔犬も６匹
うまれていた